

北海道後志地区での海業推進にかかる現場マッチング会について ご案内

1 目的

水産庁では、海や漁村の地域資源を活かし、漁業だけでなく観光や体験学習、商品の開発販売など幅広い取組を通し、地域の賑わいや所得と雇用を生み出す「海業」の取組を進めています。

これら海業の推進においては、漁業者や行政機関の他、民間事業者や地域団体など、多様な主体が連携・協働することで、地域が持つ新たな魅力や可能性を引き出す鍵となっています。

今回、北海道後志地域が持つ大自然や伝統文化、水産物や漁港施設等の地域資源を実際にご覧頂き、多様な主体が集い意見交換することで、新たな発見や企業との連携など、地域が持つ未知の可能性を見出すことが期待され、初めての試みの「現場マッチング会」を開催致します。

以下のとおり、本地域での海業の取組に関心がある参加者を広く募集いたします。

2 概要

(1) 実施日時

2025 年 11 月 7 日（金曜日）9 時～17 時 30 分

(2) 参加者団体（例）最大 30 人

- ・ 地域が求める企業（後段連携イメージ参照：旅行会社、レジャー産業、地域貢献企業等）
- ・ 後志地域の活性化や海業参入にご関心のある者
- ・ 後志地域の取組を参考にしたい行政機関や漁業者団体等

(3) 内容（行程をご参照ください）

- ・ 現場見学（漁港関連施設、周辺施設等）
- ・ 地域の歴史や水産資源、周辺観光資源等、海業推進に連携となる内容の視察、取組紹介
- ・ 参加企業と地域関係者との連携に向けた情報交換

※参加者はマイクロバス等にて各移動を予定（個別の移動を希望される場合は調整します）

(4) 主催・事務局

主 催：水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課 朝倉・塚本・加藤

Tel 03-6744-2387 ☒kunitomo_asakura010@maff.go.jp

事務局：ランドブレイン株式会社 齋藤・堀越

（問合先）Tel 03-3263-3811 ☒gyoson@landbrains.co.jp

3 参加の方法

- ・ 申込み締切り 10 月 24 日(金)迄、先着順。以下の申込みフォームより申込みください。
申し込みフォーム：<https://forms.gle/V4EEnQS3chZZZ3w86>
（メール申込みは、事務局へ①氏名②所属③電話・メール④住所をお知らせください）
- ・ 1 団体 2 名迄でお願いします。定員(30 名)を超えた際は調整をさせていただきます
- ・ 参加費は無料です（バス代、現地施設見学等の費用はかかりません。）
小樽駅までの交通費、行程内の昼食（2000 円程度）は各自御負担ください。

4 行程（時間は微調整の可能性有）

時刻・時間	場所	内容
8:55 集合	運河プラザ前	ルタオ小樽運河プラザ店前広場（小樽駅徒歩 10 分）
9:00～9:40	小樽市博物館運河館	「小樽を知る、小樽の自然と歴史文化」（石川館長）
9:50～10:20	祝津漁港 1 茨木家中出番屋	ゴールデンカムイの聖地巡礼 「おたる海の学校等、祝津漁港での海業の取組」
10:30～11:00	祝津漁港 2 小樽市鯉御殿	(株)小樽水族館公社指定管理 「鯉御殿の施設見学と祝津漁港の可能性を知る」
12:00～12:20	道の駅ふるびら	「たらこミュージアム視察」（トイレ休憩お土産購入）
12:30～13:20	昼食	「海鮮丼又は、にぎり」（各自負担 2000 円程度）
13:30～14:00	古平漁港 漁港会館	「古平漁港のぶりのブランド化や海業の取組」
14:15～14:55	美国漁港	「美国漁港や積丹地区での海業や地域活性化の取組」 （ヤマシメ番屋、海森スタジオ、徒歩）
15:00～16:15	積丹町役場	意見交換会 【第 1 部：30 分】（事務局・各地域から） ○視察地区の振り返り（補足説明等）【10 分】 ○小樽後志地域の可能性について【10 分】 ○質疑応答【10 分】 【第 2 部：45 分】（参加者から） ○参加者 PR（参加動機や地域に期待する等）【30 分】 ○質疑応答、全体総括【15 分】
16:20～17:30	（移動）	バス中で感想等の意見交換、アンケート回答
17:30 解散	小樽駅	（希望者は小樽駅周辺にて交流会、参加費各自負担）

※往復バス内においては、地域の魅力紹介のガイド付き

5 地域のご紹介 北海道後志地区（小樽市、古平町、積丹町）



＜小樽市祝津漁港での海業の取組計画＞

旬の地魚で地域水産業を学ぶ拠点「おたる海の学校」：祝津漁港（北海道小樽市）

様式 2

概要

- 水族館や鯨御殿等の観光施設に隣接し、市街地から約5kmと好アクセスの第1種漁港。
- 祝津地区全体での定住人口は減少している一方で、ホタテやウニ、シャコなど知名度の高い漁獲があり、近年では若手漁業者の新規就労が進み、活力ある漁港となっている。観光面では令和6年度の小樽市観光入込数は800万人を超える予想され、地域観光施設へも波及効果がある。
- 地域住民や漁業者が協力し「おたる祝津にしん・おたて祭り」開催や「次木家中出張り番屋リノベーション」等、にぎわい作りの取組みが進んでいるが、来訪者が地場の魚介類に触れる機会やサービスは限定的で付加価値化には課題がある。
- 本取組を通じて、旬の地魚を題材とした学びの場「おたる海の学校」を設け、漁場環境の保全、資源管理への取組み、漁業の面白さを見える化し、生産から消費までのサプライチェーンからバリューチェーン化することで、漁村の活性化を目指す。



海業の取組概要

- 「おたる海の学校」の立上げと運営。
- 旬の地魚教材開発（カリキュラム）及び運営
- 旬の地魚を活用した食育（さばき体験、調理体験）
- 食育教材となる水産加工品の開発
- 漁村歴史文化、自然環境を活用した教育旅行の商品開発
- 上記の試行による運営体制の整備

↓
地域のにぎわいや所得向上、雇用創出に資する取組みへブラッシュアップ。
・サービスや商品の販売拡大、・運営スタッフの雇用、・活動拠点の整備



活動拠点のニシン番屋



にしんおたて祭り（H21～）

協力体制

運営：NPO法人おたる祝津たなげ会

協力団体：小樽市漁業協同組合、小樽市、祝津町会、小樽観光協会、小樽商科大学、おたる水族館、北海道中小企業家同友会しりべし小樽支部、北海道海洋文化フォーラム、

効果

ファミリー層をメインターゲットとした「おたる海の学校」を運営し地域活性化の基盤を形成することで、漁村・おたるブランドを育て、地域経済に貢献する。

- 小樽産の地魚の消費拡大（PR、体験プログラム、水産品の販売拡大）
- 学びをベースとすることで、質の高い交流人口、関係人口の獲得
- 地域コミュニティの醸成、協力施設団体との協業体制づくり

スケジュール

令和7年6月 にしんおたて祭りにブース出展
令和7年8月 海の学校・夏開催（ウニ）
令和7年11月 海の学校・秋開催（シャコ）
令和8年1月 海の学校・冬開催（ニシン）
令和8年4月 海の学校・春開催（海藻）
※順次カリキュラムを編成し教材を作成する
令和8年度 学校開校＋教育旅行の受入れ

＜古平町古平漁港での海業の取組計画＞

海の資質、海の資源を最大限に利用した“遊・食・泊”の取組：古平漁港（北海道古平町）

様式 2

概要

- 地区の課題**
 - ・気候変動による海洋環境の変化による、タラやスケソウダラなどの主要魚種の資源量の減少や少子高齢化の影響で後継者不足の深刻化により、地域水産業の衰退が懸念されている。
 - ・年間100万人以上の観光客が訪れる道内有数の観光地である「積丹町」や「余市町」に挟まれた立地ながら、町を訪れる観光客は、その1割にも満たない年間10万人弱で、素通りされる町になっている。
- 取組目標**
 - ・海の資質、海の資源を最大限に利用した“遊・食・泊”の取組を地域一体で具現化し、通過型から滞在型観光への転換を行い、水産業を核とした地域再生を図る。



海業の取組概要

- 漁港を核とした教育学習の検討推進（泊）**
令和5年度に古平漁港内にある老朽化した研修施設（漁港会館）を改修し、一時滞在可能な施設に整備。また令和5年度から活動を開始した地域おこし協力隊員が地域課題である町内の空き家をリノベーションし、民泊施設「じもつFURUBIRA」として営業を開始した。これにより、これまで不可能だった漁港を拠点とした滞在型観光が可能となるほか、当該施設を活用した教育学習についても検討推進する。
- 観光プログラムの検討推進（遊・泊）**
漁港会館や民泊施設を有効活用し、迫力ある水揚げ風景を船上で見学するツアーや産地市場の荷揚げ見学、競り体験ツアー、獲れたての新鮮な魚介類を直ぐに捌いて味わうことができる味覚ツアーなど地域資源を活用した各種観光プログラムを検討推進する。
- 地元水産物を活用した地域産品の開発・PR活動（食）**
車じゃこたん漁協古平地区青年部や令和7年度開業予定「道の駅ふるびら（仮称）」の指定管理者などと連携して地元水産物を使った新たな地域産品を開発し、ふるさと納税の返礼品や漁協直売所、また道の駅ふるびら（仮称）での販売、その他PR広報活動（パッケージデザインや販売がスター等）を展開し、地域一体で魅力ある商品の開発を推進する。

効果

- 漁港内に整備された研修施設や民泊施設で宿泊体験を行うことで、町内小学生に漁業の苦労や鮮度保持、衛生管理など、水産業の様々な活動をより身近な視点で体感してもらい、水産業の町ふるびら出身としての一生忘れない思い出と自覚を醸成する。
- 観光客向けの滞在型観光プログラムへの対応が可能となり、これまで不可能であった早朝出漁の漁船に搭乗する体験ツアーや朝顔の体験ツアーが可能となる。
- 漁協青年部の取組では、地元水産物の中でも魚価が安いホッケやカレイ、タラなどの魚種に主眼を置き、新たな特産品を開発することでそれらの魚種全体の付加価値を高め、漁家所得が増大する。
- 道の駅ふるびら（仮称）指定管理者との取組では、古平町の水産物などを活用した特産品を新たに開発し、地域イベントやSNSの発信力を活用することで、古平町の知名度が向上する。



漁港会館



民泊 じもつFURUBIRA

協力体制

運営主体：古平町、東じゃこたん漁協
協力組織：古平町商工会、古平町観光協会、小樽水産高校など
オブザーバー：北海道開発局、北海道後志総合振興局

スケジュール

漁業推進協議会設立（R6.4）
担当者会議（月1回）
漁業推進協議会総会（年1回）
宿泊、ツアー受入（周年）

「積丹町美国漁港での海業の取組計画」

水産加工・物販、食提供・体験機能を備えた海業交流拠点の形成

：美国漁港

様式2

中間蓄養・藻場造成支援、漁村体験観光等の機能を備えた海業振興拠点の形成：余別漁港（北海道積丹町）

概要

- 半島先端の景勝地とウニの産地として年間100万人の観光客を魅了しているが、観光客の滞在性が低く、飲食の収益力向上や多様な水産物の付加価値・商品化、自然体験型観光の創出などによる漁村経済の好循環化が遅れている。
- 多様な水産資源等を活用した、「水産加工・物販、食提供・体験機能等」を備えた漁港・漁村交流拠点施設を官民連携により整備し、交流人口の増加や所得の向上を図り、漁港・漁村の賑わい創出を目指す。
- 官民連携による中間蓄養や藻場造成支援、漁村体験観光機能等を備えた海業振興拠点形成の創出を目指す。



海業の取組概要



- 多様な水産資源の活用
 - ・加工、観光等の複合施設を整備し、多様な水産資源の商品化等による魅力の向上。
- 加工事業等の導入による通年での収益体制の確立
 - ・加工事業の誘導による冬期収益化と通年雇用体制の実現。
- 顧客の地域づくり参加やリピート率の向上
 - ・体験プログラムの提供による生産地域への関心向上や地域づくりへの参加及びリピート率の向上。
- 漁港背後集落の伝統施設の活用
 - ・漁業の歴史の伝承の場『ヤマシメ番屋・石蔵』を海業関連施設として整備活用。
- 中間蓄養や藻場造成支援、漁村体験観光機能等を官民連携により備えた海業振興拠点の形成

効果

- 通年雇用体制の実現
- 加工事業等による地元水産物の消費拡大
- 交流人口の創出による地域経済の活性化
- ブルーカーボン推進への寄与

協力体制



※積丹町地域活性化協議会（構成：漁協、町を含む9団体）

スケジュール

- 令和7年度 調査検討
- 令和8年度 事業化モデル計画・整備計画
- 令和9年度 整備事業化

「行程内漁港以外の見学先」

- ① 小樽市博物館運河館（小樽の歴史を知る明治26年築の「旧小樽倉庫」を利用）
- ② 茨木家中出番屋（祝津の網元である茨木家が明治期に漁夫の住宅として建てた物）
- ③ 小樽市鯉御殿（北海道有形文化財ニシン漁場建築）として、文化財に指定）
- ④ 道の駅ふるびら たらこミュージアム（特産「たらこ」を用いたテーマパーク）
- ⑤ 鯉伝習館ヤマシメ番屋（鯉文化の伝承施設にカフェを併設し観光施設として開放）
- ⑥ 海森スタジオ（石蔵を活用した多目的スペース）
- ⑦ 他、道中バスから見える景勝地等を適宜紹介いたします。

「各地域との連携イメージ（一例）」

- ・海や地域の魅力を活かした旅行コンテンツの開発：旅行会社
- ・海や地域の魅力を広報誌やメディアでの情報発信：新聞社・雑誌社・報道機関
- ・自然体験学習などのアクティビティの開発：レジャー産業
- ・藻場の保全創造（ブルーカーボン）への貢献：環境保全等に興味のある企業
- ・文化伝統的資源の活用（鯉御殿、番屋、石蔵等）：企業研修や教育活用に興味のある者
- ・廃校小学校の施設やグラウンドの活用：研修所や福利厚生施設等に興味のある企業
- ・地域活性化の計画策定等に携わる：コンサルタント会社
- ・企業版ふるさと納税等で地域への貢献を模索している企業
- ・地域人材育成や地域との人事交流等を検討している企業
- ・水産物や漁業への貢献を検討している企業 等